

社会福祉法人 恒和永千会

平成30年度事業報告

施設入所について、1名（男性）の空きがあったが、12月に入所されたことにより、定員（50名）がいっぱいとなる。その点において、昨年以上に収入増の運びとなり、安定した運営が出来たといえる。しかしながら、短期入所（4床）に目を移すと、定期的に利用される方を除くと、新規での受入れはなく、利用率も徐々に落ち込んできているのが現状である。利用増を目指すにおいて、各関係機関等へ向けてどのように情報発信を行なっていくか検討して行きたい。

表町事業所において、4月から女性利用者が1名利用されるようになる。しかし年度途中から通所できる回数が減り、保護者、学校、関係機関と話し合いを重ねながら、利用に向けた方向性を模索しているところである。ここ数年、新規利用につながるケースがなく、表町分場としての特色又は魅力を、多方面に出していきながら認知してもらう必要があると思われる。

社会福祉充実計画の1年目が終わり、女性お風呂の改修を計画通りに実施する。また、食堂手洗い場の改修及びシステムキッチンを整備する。かねてからの懸案事項でもあった、調理実習を拡充したいとの意向から導入することとした。今後、利用者と一緒に調理実習を行なっていく中で、楽しみが持てる活動になることを期待したい。

今年度、3月末での退職が相次ぎ、基準とされている職員配置を満たすことが難しい状況になってきている。離職率が多いと言われている業種の中、この先、どうしたら職員の定着が図れるかを法人全体で考え、答えを出していくことが急務であると思う。

社会福祉法人 恒和永千会 障害者支援施設ぽればれ
平成 30 年度事業報告

■本場:(生活介護、施設入所支援、短期入所)

1. 安心・安全な生活

利用者の高齢化と身体機能の低下が顕著に現れ始めた年度になった。特に、男女生活棟から食堂や活動場所への移動に際し、見守りや付き添いなどが必要な場面が増えた。そのため、意図的に職員(早出 2)を配置して移動に関する介助に注力した。今後も移動に関する介助の場面が増えてくることが予想される。利用者の安心・安全な生活を保障するために、場面に応じた状況判断力や移動介助技術力の向上、EV(エレベーター)など設備の効果的な活用方法などが課題になると思われる。

2. サービスの質の向上

(1) 日中活動の充実に向けた取り組み

利用者の実態(趣向、身体機能、健康など)に合わせた活動環境の整備や活動班の再編成を目指して取り組んだ。活動環境の整備では、3階作業室の机の配置について、人数や見守りやすい位置を考慮しながら組み替えることでゆとりのある活動スペースを確保した。また、体幹保持や安全性を考慮し、丸イスから肘掛や背もたれのあるイスに交換した。日中活動については、職員数の減少に伴って施設外のウォーキングの回数が減り、グラウンドを使った活動が多くなった。3階作業室での活動では、ペグ指しや積み木を使った造形模倣、塗り絵やはり絵など療育的な活動に取り組んだ。また、年度途中から洗濯作業を復活させ、作業的な活動場面を増やした。今後は、利用者が時間いっぱい活動できることを念頭に置き、個々に合わせた活動種を少しずつ増やししながら実態に合わせた活動班の編成に取り組んでいきたい。

クラブ活動については、園芸クラブ、わくわくクラブ(缶バッジなど)、マラソンクラブ、お花教室に加えて、レクリエーションクラブ(音楽とクッキングを合わせたもの)を新設して取り組んだ。園芸クラブでは、グラウンドとその周辺に野菜や花を植え、定期的な水やりや収穫などを行なった。わくわくクラブでは、缶バッジ製造機を購入し、好きな絵を缶バッジにして楽しんだ。マラソンクラブでは、西大寺のマラソン大会に10名程度出場した。当日、参加できなかった利用者を除いて全員完走されている。お花教室では、毎月1回、講師の先生を招いて実施した。生け花の作品は主に食堂等に展示し、行事に際しては、会議室や玄関に展示の場を広げた。レクリエーションクラブでは、カラオケ(童謡などを利用者が歌う)をしながら、音楽に合わせて手作りのマラカス(ペットボトル)を鳴らしたり、体全体を使って踊ったりして楽しんだ。また、保護者有志が主催してオカリナの演奏を聞かせてくれたり、曲に合わせてハンドベルを奏でたりする音楽レクリエーションを盛況に開催した。乗馬については、利用者の高齢化と身体機能の低下に伴い、介助がないと自ら馬に乗ることができない利用者が増えてきている。これまで以上に、安心・安全に関する配慮が必要になってきている。

(2) 衣服への配慮

衣については、6月と10月の初旬に衣替えを一斉に行った。30年度は6月が寒く、10月が暑い年だったため、季節に応じた衣服の調節に苦慮した。

(3) 食事への配慮

食については、栄養ケアマネジメントを基に、食事提供のやり方(嚥下や口腔機能に応じた刻み食等)を工夫しながら提供した。今後も適切な栄養素の摂取と利用者個々の実態にあった安心・安全な食事のあり方について検討していく。

(4) 住環境への配慮

住については、1階西側トイレと2階浴室や脱衣場の改修工事が終わった。清潔感があり使いやすくなったと感じている。従って、改修した浴室やトイレを中心に『誰が見ても清潔感のある空間』を維持するために、掃除実施記録表を作成して掃除に取り組んだ。また、昨年度と同様に、居室の掃除が行き届いていないことが多かった。担当利用者との関わりを密にしていくことで、担当職員の掃除への意識向上を図りたい。

3. 職員育成について

人権擁護委員会(講師を招いた講習会など)や保健衛生委員会(歯磨き研修など)が中心になって、研修の場を設けた。

4. 家族との関係性

ケガや病気(発熱等)を認めた際は、こまめに通院し家族へ連絡するようにしている。また、毎月1回、施設での生活の場面を写真にして伝える取り組みを続けている。

5. 地域社会との連携

地域社会との連携については、小坂地区の夏祭り、子供神輿、草刈りに参加した。

■分場:(生活介護、日中一時)

(1) サービスの質と向上

日中活動について、利用者の趣向や実態に即して活動(主に製作)を提供している。特に、古紙を使った作品は、各利用者の実態に合わせて作業を分担しており、共同作品になっている。その他、紙アートやはり絵、自由画など個々の趣向にあった活動にも取り組んでいる。

行事として、焼肉会、クリスマス会を表町分場が独自に企画して実施している。

日中一時支援事業については、問い合わせがなく稼動していない厳しい状況にある。

1名の利用者が、本場短期入所事業を定期的に利用している。